

2020年度第1四半期決算説明会 主な質疑応答（要旨）

日時 : 2020年8月14日（金）16時00分～17時00分
当社出席者 : 常務取締役 竹内則夫、取締役 古川敏之

主な質疑応答 :

【全体】

- Q) 2020年度見通しが公表されていないが、最も見通せていない事業は何か。
- A) 新型コロナウイルスの感染拡大による影響により、時計事業のうち北米市場、国内市場の落ち込みが大きかった。特に主力市場である北米市場の不透明感が強く、前提を置くことが難しいと判断した。
- Q) 固定費削減額について。
- A) 4月から5月に掛けて徹底的なコスト削減を実施した。連結で120億円程度の固定費削減を行ったが、広告宣伝費が2割強、人件費が2割、残りはその他経費関連が占めている。人件費は主に海外人員の減少によるもの。シチズン電子(株)の構造改革実施による効果は第2四半期以降に出てくる。
- Q) 時計事業の構造改革施策が発表されたが、今後、時計事業以外の事業で追加施策が取られる可能性はあるか。
- A) 現在は時計事業の構造改革を最優先に取り組んでいる。時計事業以外の事業については既に構造改革を実施するなど必要な対策を取ってきた。
- Q) 2020年3月末比で海外人員数が1,000名近く減少しているが、内訳は。
- A) 中国製造工場の稼働率低下に伴う自然減が500名程度。タイ製造工場では、300名程度の人員削減を実施した。その他、海外販売会社における人員減があった。
- Q) 金融機関から350億円の借り入れを実施しているが、背景は。
- A) 新型コロナウイルスの感染拡大の影響は再び広がりを見せるなど、動向が読み切れない状況となっている。今後、再びロックダウンが実施される可能性に備え、借り入れを実施した。

【時計事業】

- Q) 特に落ち込みが大きかったが、要因は。
- A) 北米・国内市場という主力市場の落ち込みが響いた。北米市場はロックダウンの実施や実店舗流通の縮小が影響したが、6月には店舗営業が再開されており、注力しているネット販売も伸びている。国内市場はインバウンド需要の減少による影響が大きかったが、イベントや新商品投入など年末商戦に向けた取り組みを加速したい。
- Q) 在庫削減に向けた取り組みを行っているか。
- A) 特に北米市場は実店舗でセルスルーが進んでいないことから、流通在庫が重たくなっている。セルスルーを加速するべく、イベントの実施やアウトレットの活用を図り在庫削減を進めている。国内市場は量販店等でセルスルーに応じたセルインがある状況であることから、客足が戻ってくれば在庫も減少すると見込んでいる。

【工作機械事業】

- Q) 地域別受注状況はどうだったか。
- A) 国内・アジア市場に比べ、北米と欧州の落ち込みが大きかった。時計事業同様に、北米市場は不透明感が強い。欧州市場については受注活動がストップしていた影響が大きい。現在は経済活動が再開されており回復に向かっている。

以 上